

2024年度 文学部聴講生

講義要項

(英語文学文化専攻抜粋)

中央大学 文学部

2024.4 - 2025.3

科目名: イギリスの文化(1)

担当教員: 松村 伸一

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 木4

配当年次: 1・2年次配当

科目ナンバー: LE-EX1-B201

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:09 更新者: AC9666

更新日時: 2024-01-09 09:03:18

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

イギリス文化の多様な側面について、近年の状態とそこに至る歴史的経緯を紹介する。毎回ひとつのテーマを取り上げた講義動画(解説音声付きのプレゼンテーション資料)を配信し、その内容を踏まえた小テスト(manabaを利用)に答えてもらう。広く浅くイギリスについて知ってもらう方向性の授業となるが、一見つながりのない側面の間に、思いがけない共通点やつながりが見つかることもあるだろう。

授業時間外の学習として、イギリス映画やイギリス文化関連書籍などに自主的に触れてもらいたい。学期末レポートでは、講義内容と関連付けつつ、自主学習の成果について書いてもらうことになる。

また、補助的な自主学習課題として、授業時間外にQuoraなどインターネット上のナリッジ共有サイトを利用して異文化圏の人々と交流し、文化的差異について自ら情報収集し、発表する機会も設ける。これについては学期半ば頃に詳細を案内する。

**科目目的**

この授業では、旧植民地やEU諸国など多様な文化との相互関係を持ちながら現在に至る、イギリスの文化と社会の全般について主に歴史的見地から幅広い知識を提供すること、またその知識を踏まえて、日英の文化的差異および、イギリスを(ひいては世界を)構成する多様な文化のあり方について考えを深めてもらうこと、さらにはイギリスなど外国人との交流(限られた形であれ)を持つことでそうした文化的差異や文化の多様性を体験的に理解してもらうことを目的とする。

**到達目標**

- 1) イギリスの文化と社会の全般について、その近年の状況だけでなく、そこに至る歴史的経緯について、(ひとまずこの授業で紹介される程度の)幅広い知識を得る
- 2) この授業で得た知識を活用して、イギリス映画やイギリス文化関連書籍に自主的に触れる中で、今まで気づかなかった事柄に気づいたり、奥行きのあるイギリス文化理解に近づいたりすることができる
- 3) インターネットを通じてイギリスなど外国人と交流する機会を持ち、日英の文化的差異や文化的多様性について体験に基づいて考えを深めることができる

**授業計画と内容**

- 第1回: イギリス小史: 世界の中のイギリスをみる意義
- 第2回: イギリスの地理・風土・自然環境: 文化の物理的基盤
- 第3回: イギリスの国民性と地域性 的多様性: 異文化共生という課題
- 第4回: イギリスにおける階級: 生活様式や言語的多様性
- 第5回: イギリスの宗教と民族: 文化的多様性とその共存
- 第6回: イギリス・帝国・戦争: 人種的多様性はどのように生まれたか
- 第7回: イギリスの歴史遺産と建築: 文化の保存か破壊か
- 第8回: イギリスの教育: 異文化理解・共生との関係から
- 第9回: イギリスの文学: ハイカルチャーからローカルチャーへ
- 第10回: イギリスの美術・デザイン: ヨーロッパの中のイギリス文化の特異性
- 第11回: イギリスの音楽・舞台芸術・映画: アートによる「英国性」の形成
- 第12回: イギリスの生活文化: なぜイギリス料理はまずいのか
- 第13回: イギリスのスポーツ: イギリス固有の文化から世界文化へ
- 第14回: イギリスにおける犯罪: なぜイギリスは推理小説大国になったか

- ◆希望者限定ではあるが、第12～4回にわたって、各自がナリッジ共有サイトなどを利用して収集した情報を、manaba上に発表・共有してもらうことも考えている
- ◆定期試験は実施しない

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

講義動画を視聴し、小テストに回答するまでを「授業時間」とする。以下は「授業時間外」に受講者に取り組んでほしい学修

内容。

【事前学習】次の授業で取り上げるテーマについて、(1) 日本文化の同じ側面について他国の人に伝えるとして、自分ならどんなことを伝えるか、(2) イギリス文化のその側面について自分はどんなことを知っているか、の2点を考えておくこと。

【事後学習】授業で紹介された映画や本などの中から、興味を懐いた物を自分で視聴したり読んだりして、気づいたことはメモしておく。もちろん、映画や本などをさらに自主的に探して、自分で触れてもらえれば、さらに良い。

### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	50%	1) レポート対象の内容が適切に紹介されているか(不必要なあらすじ紹介にとどまらず、要点を押さえた記述になっているか)。 2) イギリス文化に関する正しい知識に基づいた記述がされているか。 3) 自分なりの「発見」があるか(今まで誰も気づかなかったような新発見を求めているわけではありません。あくまで「自分なりの」発見です)。
平常点	50%	manaba上で実施する小テストの点数に基づく。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

- ◆ナリッジ共有サイトを利用した情報共有の貢献については、イギリス文化(とその多様性)の理解に役立つと思われる程度に応じて加点する。
- ◆最終的な成績は、受講者全員の中央値(median)が75点程度となるよう点数調整のうえで算出される。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【参考文献】

- ・下楠昌哉編『イギリス文化入門（新版）』三修社、2023年
  - ・木下卓／窪田憲子／久守和子『イギリス文化55のキーワード』ミネルヴァ書房、2009年
  - ・板倉巖一郎／スーザン・K・バートン／小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』松柏社、2008年
- その他、各テーマに関連する参考文献は授業内で随時紹介する。

## オフィスアワー

## その他特記事項

- ◆講義動画の配信や小テスト、質疑、情報共有など、この授業に関連する活動は、基本的にすべてManabaを利用して行います。その使用方法については、大学からの案内に従って、各自で習熟しておいてください（特に技術的に複雑な作業を求めることはありません）。
- ◆ナレッジ共有サイトを利用した情報収集については、学期半ば頃に詳しい案内をする予定です。それまでは特に気にする必要はありません。
- ◆学期末に提出してもらったレポートについては、ネットや書籍からの剽窃・無断借用が見つかった場合には無条件で成績は不可となります。なお、語尾や一部語句を差し替えての借用を、最も悪質な（悪意ある）不正行為と見なします。たとえ情報源を適切に示して引用している場合でも、自分で考えて書いた文章が全体の70%以上を占める必要があります。他人の文章の寄せ集めにとどまっている場合には、不可ないしきわめて低い評価が与えられます。もちろん、授業内容を著しく誤解している場合も、評価は低くなります。反対に、授業内容をよく理解した上で、自分なりの関心に沿って本や映画などに組み組み、そこから自分なりの「発見」を引き出しているレポートを高く評価します。

## 参考URL

## 備考

この科目はオンライン形式です。 この科目は教職（英語）の必修科目です。 ※2020年度入学生まで対象

---

科目名： イギリスの文化(2)

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 火6

担当教員： 加太 康孝

配当年次： 1・2年次配当

科目ナンバー： LE-EX1-B202

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:09 更新者： AD0949

更新日時： 2024-01-09 23:55:20

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代イギリスの文化に見るアイデンティティーの諸相

現代イギリスにおけるアイデンティティーという主題を設定します。

その上で、「イギリス」という地域における複数性や多様性の表れ方という問題を念頭に置きます。人々のアイデンティティーが単一のもの、均質なものであるということはありません。したがって複数性や多様性が浮かび上がることは当たり前のことなのですが、まずはそのことを体感することを目指します。同時に、「複数性」「多様性」という言葉に止まってしまうないように(つまり、「いろいろな人がいるなあ」で終わってしまうように)気を付けます。複数性や多様性を具体的に捉えた上で、それを整理して理解することが重要です。

各回では特定の論題を挙げ、それに関わる文化的事象を題材として考察します。前半の「イギリスを構成する地域」と後半の「世界の中でのイギリス」との2部に分かれます。

入門に当たる授業であり、扱う主題が広範囲にわたるため、授業ではまず各回の論題について概観し、大掴みな把握を試みます。そのためどうしても広く、浅くという理解になってしまいがちですが、その欠点を補うべくさらにいくつか特定の文化的事象を取り上げて、具体的にそれぞれの問題に分け入っていきます。その際には小説、詩、映像作品など多様な文化作品も扱うことになります。また、現代のイギリスの社会に至るまでの経緯を理解しておくことの重要性を認識するべく、講義ではしばしば歴史的手法が取られます。

受講者は各回で提示される論題について自分なりの考えを持つことが求められます。(具体的には「授業時間外の学習」の項目参照。)

**科目目的**

- ・ イギリスにおける文化およびアイデンティティーを理解するための知識や視点を学び、その全体像を把握する。
- ・ イギリスにおいて複数性、多様性がどのような形で表れているのかということについて理解を深める。
- ・ イギリスの文化およびアイデンティティーについての考察を通じて、あるひとつの地域における文化やアイデンティティーを学問的に扱う手法を習得する。

受講生の方々は必ずしもイギリスという地域の研究に継続して携わっていくわけではないでしょう。また、イギリスという地域に大きな関心を抱いている方ばかりでもないかもしれません。いずれにしても受講生には、この科目で得た手法を自分の生活する、あるいは興味を持つ地域を見る際に応用していこうという姿勢が求められます。

ただしその一方で、ある地域についての考察から学んだ知識や手法を他の地域にも応用して広げていくためには、当該地域(すなわちこの授業ではイギリス)の特殊性を徹底的に理解しようと努めることが必要不可欠です。ですから、イギリス以外の地域と比較する姿勢を念頭に置きながらも、まずはどっぷりとイギリスのことについて考えてもらいたいと思います。

**到達目標**

文学部は、学位授与にあたって「備えるべき知識・能力・態度」を定めています。その観点からこの授業では以下の目標を掲げます。

- ・ イギリス地域の文化を学ぶに当たって必要な専門的知識の基礎、および幅広い教養を身に付ける(「専門的学識」・「幅広い教養」)
- ・ イギリスという特定地域の文化について考察するための知識および視角を得ることで、複眼的に思考し、さらにはさまざま

な地域社会のあり方について柔軟に対応する姿勢を身に付ける（「複眼的思考」）

・ イギリス地域の文化について学んだことを自分の関心に結び付け、適切に自分の言葉で表現する力を身に付ける（「コミュニケーション力」「主体性」）

### 授業計画と内容

- 第1回 導入（鍵となる概念の導入およびイギリスの基本情報）
- 第2回 イギリスを構成する4つの国①（イングランド）
- 第3回 イギリスを構成する4つの国②（スコットランド）
- 第4回 イギリスを構成する4つの国③（ウェールズ）
- 第5回 イギリスを構成する4つの国④（北アイルランド）
- 第6回 イギリスをかつて構成していた国（アイルランド）
- 第7回 第6回までのまとめ（連合王国としてのイギリス）
- 第8回 世界の中のイギリス①（「三つの偉大な輪」）
- 第9回 世界の中のイギリス②（帝国・コモンウェルス）
- 第10回 世界の中のイギリス③（ヨーロッパ）
- 第11回 世界の中のイギリス④（アメリカ）
- 第12回 世界の中のイギリス⑤（民族・人種）
- 第13回 世界の中のイギリス⑥（宗教、信仰）
- 第14回 学期の総括（イギリスの多様性、複数性をどのように見るべきか）

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

予習 各回の授業で次回の主題および扱う題材を提示し、またいくつかの問いを出します。受講生は知らない固有名詞や概念についてあらかじめ調べ、また問いに対する自分の答えを用意しておいてください。

復習 各回の授業内で出てきた固有名詞や概念について不明点が残らないように、そして理解が深まるように、可能な限り調べてください。

各回の確認問題を提示するので、取り組みは任意ですが役立ててください。

その他、授業で紹介された書籍を読んだり、ウェブサイト、映画を自分で見たり、上演中の舞台や演劇、あるいは開催中の展覧会に足を運んだりしてください。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・ 毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	50% 学期を通じて得たイギリス文化に関する知識の定着度が問われ、また学んだ内容に基づいて自ら考察した内容を説明することが求められる。
レポート	0%
平常点	50% 各回のコメントペーパーが主たる評価対象となる。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

- ・ 毎回の出席が基本となります。さまざまな事情はあると思いますが、欠席は多くとも3回程度に収めてください。
- ・ 不可抗力によるものも含め、5回欠席した段階で学期末試験は受けられず評価はFで確定します。やむを得ない事情による欠席のみで5回に達してしまいそうだ、という場合には早めにご相談ください。
- ・ オンライン授業では何をもって出席したと見なすべきか解釈が分かれがちです。この授業での出席の定義や履修期間までの最初の数回分の出席回数、やむを得ない不在時の代替措置については初回に説明した上で manaba 上に掲示します。
- ・ 授業で紹介された書籍を読んだり、ウェブサイト、映画を自分で見たりした場合、簡単な報告を提出すれば評価に加味します（形式など授業内で説明予定）。
- ・ 期末試験は教室集合型で実施する可能性があります。確定し次第お知らせします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL（課題解決型学習）  
反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

✓ 実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

はい  
✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキストとして指定するものではありません。適宜 manaba を通じて資料を配布します。

その一方で、受講生は授業の内容を深めるべく関連文献を各自で読み進めることが期待されます。  
そうした文献については授業中に随時紹介していきますが、特にこの授業と関連性が深く、入手しやすいものは以下です。

- ・マイク・ストーリー、ピーター・チャイルズ（編）、塩谷清人（監訳）『イギリスの今 - 文化的アイデンティティ』2013年（世界思想社）（原著の最新版は Mike Storry and Peter Childs, *British Cultural Identities*, 6th edn, 2022）
- ・板倉敏一郎、スーザン・K・バートン、小野原教子『映画でわかるイギリス文化入門』2008年（松柏社）
- ・下楠昌哉（責任編集、著）、岩田美喜、西能史、丸山修、杉野健太郎、荒川裕子、小川公代、小舘尚文、下永裕基、立入正之、田中美穂、日臺晴子、深谷公宣、真野剛（著）『イギリス文化入門』2010年（三修社）
- ・石塚久郎、大久保謙、西能史、他（編）『イギリス文学入門』審判（三修社、2023年）
- ・近藤久雄、細川祐子、阿部美春（編）『イギリスを知るための65章』第2版 [エリア・スタディーズ、33]（明石書店、2014年）
- ・吉賀憲夫（編）『ウェールズを知るための70章』第3版 [エリア・スタディーズ、175]（明石書店、2019年）
- ・尹慧瑛『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きる人びと』（法政大学出版局、2007年）
- ・海老島均、山下理恵子（編）『アイルランドを知るための70章』第3版 [エリア・スタディーズ、44]（明石書店、2019年）

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

## 備考

この科目はオンライン形式です。

---

科目名: イギリス文学史(1)

担当教員: 木村 明日香

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 木1

配当年次: 2・3年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-B203

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:09 更新者: AA1935

更新日時: 2024-01-07 10:18:17

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

古英語・中英語の時代から17世紀末までのイギリス文学の歴史を概観します。各時代の重要な出来事、文化的・思想的背景などを踏まえながら、主要な作家・作品を紹介していきます。

### 科目目的

イギリスの文学・歴史・思想の大まかな流れを知り、新しい作家・作品に出会うこと。

### 到達目標

イギリスの文学・歴史・思想の基礎知識を習得すること。

### 授業計画と内容

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 古英語文学: 宗教詩、エレジー、リドルズ
- 第3回 古英語文学: 『ベーオウルフ』とその後の受容
- 第4回 中英語文学: 『農夫ピアズ』『カンタベリー物語』を中心に
- 第5回 中英語文学: 『アーサー王の死』とその後の受容
- 第6回 中世演劇: 道徳劇、間狂言、コーパス・クリスティ劇
- 第7回 16世紀の詩: ソネット(十四行詩)、シドニー、スペンサーほか
- 第8回 17世紀の詩(1): 形而上詩人、王党派詩人
- 第9回 17世紀の詩(2): ミルトン、ドライデン、ロチェスター
- 第10回 16、17世紀の散文: モア、リリー、ベイコン、バニヤン
- 第11回 イギリス・ルネサンス演劇: キッド、マロウ
- 第12回 イギリス・ルネサンス演劇: シェイクスピア、ジョンソン
- 第13回 王政復古演劇: 風習喜劇と改作シェイクスピア
- 第14回 総括・まとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 70% 期末試験の得点にもとづいて評価する
- レポート 0%
- 平常点 30% 小テスト
- その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)



### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

【テキスト】プリントを配布します。

【参考書】石塚久朗編『イギリス文学入門』三修社、2014年。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

この科目は教職 (英語) の必修科目です。

---

科目名： 近代イギリス小説(1)

担当教員： 大田 美和

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-B205

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:10

更新者： AA0322

更新日時： 2024-01-09 10:18:51

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

近代イギリス小説について、ジェンダーの視点によって考えます。manabaのコンテンツにアップしたレジュメにしたがって、小説の抜粋を英語で読み、鑑賞し、研究する姿勢を身につけます。

**科目目的**

フェミニスト批評やジェンダー論の視点から近代イギリス小説を学ぶことによって、文学テキストや映像について主体的に問題意識をもって問いかけ、思考し、社会について人間についての思考を深めることをめざします。優れた文学作品や芸術作品に対して心を開き、感動を言葉で表現する力を高めることもめざします。

**到達目標**

ブリタニカオンラインや文学事典の項目などを、英語で読む力を身につける。

中大図書館データベースの「ジャパンナレッジ」や「ブリタニカオンライン」(英語)や「Literature Online」や「Gale Literature」などを活用できるようになる。

イギリス小説の特徴と発展について理解する。

近代イギリス小説の名場面の短い抜粋を、原文の英語で読み、味わい、研究のきっかけになる問題点を見つける力を身につける。

文学研究の基本的な姿勢を身につけ、与えられた課題についてショートレポートが書けるようになる。

インターネット上の学びに役立つウェブサイトを利用することができるようになる。

**授業計画と内容**

- 第1回：イントロダクション 近代小説においてなぜ「女」が問題になるのか? 「女」の表象と階級、人種、帝国、進化論 科学的言説と文学テキストの関係
- 第2回：二つの女性像と「女」の病気、家庭
- 第3回： 既婚女性の権利獲得運動史 Barbara Leigh-Smith Bodichon と Caroline Norton
- 第4回： Jane Austen (1) 「女」である困難を乗り越える方法 “Beautiful Cassandra”
- 第5回： Jane Austen (2) 女は馬鹿なふりをしたほうが得? Northanger Abbey
- 第6回： Jane Austen (3) 結婚市場における「女」の売買としての結婚 Pride and Prejudice
- 第7回： Jane Austen (4) Persuasionのヒロインの「女らしさ」
- 第8回： The Brontë Sisters (1) Jane Eyre のfeminist manifest あるいは人権宣言
- 第9回： The Brontë Sisters (2) Villette の二人の男を愛する「女」
- 第10回： The Brontë Sisters (3) ヒースクリフは「女」か? Wuthering Heights
- 第11回： The Brontë Sisters (4) DV、児童虐待とThe Tenant of Wildfell Hall
- 第12回： 近代の女の規範をクィアする レズビアン女領主 Miss Anne Lister の日記
- 第13回： 性自認、性的指向、性表現、結婚、非婚の違いを超えて Brontë, Mary Taylor, Anne Lister
- 第14回： まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書は授業で扱わない部分も自分で読んで下さい。小テストで教科書から出題することがあります。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 与えられた課題について十分に考察したショートレポートが執筆できるかどうかを評価します。
平常点	70% manabaの小テストの得点状況を基準とします。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席は不可となります。

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL(課題解決型学習)  
反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：浦野 郁、奥村 沙矢香 編著『よくわかるイギリス文学史』ミネルヴァ書房、2020年 ISBN：9784623087747

参考書・参考資料等：

石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014年  
メリン・ウィリアムズ『女性たちのイギリス小説』南雲堂、2005年。  
松岡光治編『ギャスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』溪水社、2010年。  
ヴァージニア・ウルフ『自分ひとりの部屋』平凡社ライブラリー、2015年。  
Shattock, Joanne. Ed. Women and Literature in Britain 1800-1900. Cambridge: Cambridge UP, 2001.

### オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

---

科目名： 近代イギリス小説(2)

担当教員： 大田 美和

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-B206

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:10 更新者： AA0322

更新日時： 2024-01-09 10:25:05

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

近代イギリス小説について、ジェンダーの視点によって考えます。manabaのコンテンツにアップしたレジュメにしたがって、小説の抜粋を英語で読み、鑑賞し、研究する姿勢を身につけます。

### 科目目的

フェミニスト批評やジェンダー論の視点から近代イギリス小説を学ぶことによって、文学テキストや映像について主体的に問題意識をもって問いかけ、思考し、社会について人間についての思考を深めることをめざします。優れた文学作品や芸術作品に対して心を開き、感動を言葉で表現する力を高めることもめざします。

### 到達目標

ブリタニカオンラインや文学事典の項目などを、英語で読む力を身につける。

中大図書館データベースの「ジャパンナレッジ」や「ブリタニカオンライン」(英語)や「Literature Online」や「Gale Literature」などを活用できるようになる。

イギリス小説の特徴と発展について理解する。

近代イギリス小説の名場面の短い抜粋を、原文の英語で読み、味わい、研究のきっかけになる問題点を見つける力を身につける。

文学研究の基本的な姿勢を身につけ、与えられた課題についてショートレポートが書けるようになる。

インターネット上の学びに役立つウェブサイトを利用することができるようになる。

### 授業計画と内容

- 第1回 インTRODakシヨN 近代小説ではなぜ結婚や家族が問題になるのか?
- 第2回 Elizabeth Gaskell (1) Mary Barton (における経済格差社会と女の労働とセックス・ワーク
- 第3回 Elizabeth Gaskell (2) Cranford (における牧師の娘と息子
- 第4回 Elizabeth Gaskell (3) ジェンダーと規範意識 “Martha Preston”と “Half A Life-Time Ago”
- 第5回 Elizabeth Gaskell (4) North and South はPride and Prejudiceか? クィア・リーディングの試み
- 第6回 George Eliot (1) Gaskell のRuth とEliot のAdam Bede (における婚外子と未婚の母
- 第7回 George Eliot (2) The Mill on the Floss (における父と娘と息子
- 第8回 George Eliot (3) Silas Marner (における血縁によらない家族
- 第9回 George Eliot (4) Middlemarch (における夫婦と名誉
- 第10回 George Eliot (5) Daniel Deronda (におけるDVと殺人
- 第11回 Thomas Hardy (1) ミドルクラスではない男性作家の「女」の表象 Tess of the D'Urberville
- 第12回 Thomas Hardy (2) ヴィクトリア朝の結婚制度に対する異議申し立て Jude the Obscure
- 第13回 その後のイギリス小説の進展 性自認、性的指向、性表現、結婚、非婚の違いを超えて
- 第14回 まとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジュメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

教科書は授業で扱わない部分も自分で読んで下さい。小テストで教科書から出題することがあります。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	30% 与えられた課題について十分に考察したショートレポートが執筆できるかどうかを評価します。
平常点	70% manabaの小テストの得点状況を基準とします。
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席は不可となります。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：浦野 郁、奥村 沙矢香 編著『よくわかるイギリス文学史』ミネルヴァ書房、2020年 ISBN: 9784623087747

参考書・参考資料等：  
石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014年  
メリン・ウィリアムズ『女性たちのイギリス小説』南雲堂、2005年。  
松岡光治編『ギャスケルで読むヴィクトリア朝前半の社会と文化』溪水社、2010年。  
ヴァージニア・ウルフ『自分ひとりの部屋』平凡社ライブラリー、2015年。  
Shattock, Joanne. Ed. Women and Literature in Britain 1800-1900. Cambridge: Cambridge UP, 2001.

### オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

---

**科目名： 現代イギリス小説(1)****担当教員： 安藤 和弘**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 火5

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B207

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:10 更新者：AB5026

更新日時：2024-01-08 13:00:26

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代英国文壇を代表する作家の一人であり、2017年度にはノーベル文学賞を受賞したKazuo IshiguroのA Pale View of Hills (1982)を読む。Ishiguroは日系人であり、そのためであろうか、日本でも良く紹介されている。映画化もされたThe Remains of the Day (1989)で最も良く知られている。長編作品としては最新作であるNever Let Me Goも、近年、映画化された。この講座で取り上げるのは、Ishiguroの長編処女作。Ishiguroの作家としての原点を探る。物語の主な舞台は戦後の長崎だが、語り手はその頃の長崎から英国に移住した日本人女性であり、英国で暮らしながら昔の長崎時代を振り返り、回想をする。物語の実際の舞台は英国に設定されており、長崎は記憶のフィルターを介して遠望される。

初回にまず作家についての概説をした後、毎週、一定のペース(下、「授業計画と内容」欄を参照)で、読みどころにスポットライトを当てながら、批評的な解説を加えつつ、読み進めるかたちで行う。回をこなすにつれて、作品中の場面ごとの解釈から、作品全体の解釈へと展開していく。

**科目目的**

今日のイギリスの文壇を代表する作家の作品に触れ、その作家の他の作品を読むきっかけを作ること。更に、現代イギリス小説一般への関心を高めること。  
文学作品の批評的な読みかたの基礎を習得すること。

**到達目標**

英語で書かれた小説を、細かなことまで調べなくても良いので、あらすじをつかむことに主眼を置きながら読む術を身につけること。  
批評的な読みかたの基本的な術を身につけ、単なる感想ではない理知的な反応を文学作品に施すことができるようになること。

**授業計画と内容**

- |      |           |
|------|-----------|
| 第1回  | イントロダクション |
| 第2回  | 第1章       |
| 第3回  | 第2章       |
| 第4回  | 第3章       |
| 第5回  | 第4章       |
| 第6回  | 第5章       |
| 第7回  | 第6章       |
| 第8回  | 第7章前半     |
| 第9回  | 第7章後半     |
| 第10回 | 第8章       |
| 第11回 | 第9章       |
| 第12回 | 第10章      |
| 第13回 | 第11章      |
| 第14回 | 総括・まとめ    |

(以上は予定であり、変更はありえる。)

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)**

受講学生各自が参考資料として邦訳を使うのはかまわないが、講義では邦訳には一切触れず、解説はすべて原書の英文に基づいてなされるので、邦訳を読むだけでは講義についていくことができない。ゆえ、毎回の講義に向けて原書の指定範囲に、ざっとで良いので必ず目をとっておくこと。



### 授業時間外の学修に必要な時間数／週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準（中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他）

中間試験	0%
期末試験	100%
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

講義で示した読みかたをどれだけ理解し、講義で取り上げた問題群に沿って各自が読みを深めたかに拠る。

### 成績評価の方法・基準（備考）

原則、初回の講義に欠席をすると単位の認定はしない。止むを得ず初回に出席できない場合は、事後でかまわないので理由を教員に伝えること。  
また、学期をつうじて（初回に加えて）3回ほど出席を取るが、その3回ほどすべての回が欠席の場合、期末試験を受験しても、原則、単位の認定はしない。どの回に出欠を取るかは事前に知らせない。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法（その他）

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容（その他）

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills.  
Faber and Faber、ペーパーバック版  
ISBN: 978-0571258253  
生協に入荷される版を購入のこと。他の版の使用は、電子書籍版も含めて、認めない。  
参考文献：  
青木和夫・丹治竜郎・安藤和弘、『知っておきたいイギリス文学』（明治書院、2010）

### オフィスアワー

オフィスアワーは火曜日の昼休みの時間帯。アポイントメントを少なくとも一週間前までに、可能であれば二週間前に取る

こと。

教員への連絡は、案件が講義内容とは関係がない場合、または純然たる私事にかかわるものである場合に限り、メールで akazuhiro002v@g.chuo-u.ac.jp まで連絡をすることができる。その場合は件名を明記し、差出人名を本名に設定する。回答を要すると判断するメールにのみ、教員は返信をする。

なお、やむを得ない理由で欠席をする場合、事前に教員へ連絡はしなくて良い。欠席理由を証明する文面なりを、事後に提示・提出すること。

### その他特記事項

文学史も含めて英文学についての予備知識は特に必要としない。英語力が一定レベル以上あり、文学あるいは英国文化に関心がある諸君に受講を勧める。

初回に、ここに書かれていない詳細事項も含めて、履修をする上で知っておくべきことをすべて話すので、その回は必ず出席すること。初回に欠席をすると、原則、単位の認定はしない。

### 参考URL

### 備考

---

科目名： 現代イギリス小説(2)

担当教員： 安藤 和弘

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 火5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-B208

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:11 更新者： AB5026

更新日時： 2024-01-08 13:01:54

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

今日のイギリスの文壇を代表する作家の一人、Ian McEwanの長篇小説The Children Act (2014)を読む。Amsterdam(1998)やAtonement(2001)、Saturday (2005)などで知られている作家だが、この講義で取り上げるのは、最近作の中でもとりわけ完成度が高い作品。生身の人間の愛と法を司る合理的理性の葛藤を、高等法院裁判官を主人公に立てて描き出した心理ドラマと、まずは紹介しておく。

初回にまず作家についての概説をした後、毎週、一定のペース(下、「授業計画と内容」欄を参照)で、読みどころにスポットライトを当てながら、批評的な解説を加えつつ、読み進めるかたちで行う。回をこなすにつれて、作品中の場面ごとの解釈から、作品全体の解釈へと展開していく。

時間に余裕があれば、翻案映画にも参照する。

### 科目目的

今日のイギリスの文壇を代表する作家の作品に触れ、その作家の他の作品を読むきっかけを作ること。更に、現代イギリス小説一般への関心を高めること。

文学作品の批評的な読みかたの基礎を習得すること。

### 到達目標

英語で書かれた小説を、細かなことまで調べなくても良いので、あらすじをつかむことに主眼を置きながら読む術を身につけること。

批評的な読みかたの基本的な術を身につけ、単なる感想ではない理知的な反応を文学作品に施すことができるようになること。

### 授業計画と内容

- 第1回 インTRODakション
- 第2回 第1章 1～20頁
- 第3回 第1章 21～40頁
- 第4回 第2章 41～60頁
- 第5回 第2章 60～75頁
- 第6回 第2章 75～89頁
- 第7回 第3章 91～118頁
- 第8回 第3章 118～130頁
- 第9回 第3章までのまとめ
- 第10回 第4章 131～147頁
- 第11回 第4章 148～170頁
- 第12回 第5章 171～191頁
- 第13回 第5章 191～221頁
- 第14回 総括・まとめ

(以上は予定であり、変更はありえる。)

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

受講学生各自が参考資料として邦訳を使うのはかまわないが、講義では邦訳には一切触れず、解説はすべて原書の英文に基づいてなされるので、邦訳を読むだけでは講義についていくことができない。ゆえ、毎回の講義に向けて原書の指定範囲に、ざっとで良いので必ず目をとっておくこと。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	100%
レポート	0%
平常点	0%
その他	0%

講義で示した読みかたをどれだけ理解し、講義で取り上げた問題群に沿って各自が読みを深めたかに拠る。

### 成績評価の方法・基準(備考)

原則、初回の講義に欠席をすると単位の認定はしない。止むを得ず初回に出席できない場合は、事後でかまわないので理由を教員に伝えること。  
また、学期をつうじて（初回に加えて）3回ほど出席を取るが、その3回ほどすべての回が欠席の場合、期末試験を受験しても、原則、単位の認定はしない。どの回に出欠を取るかは事前に知らせない。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい
- いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：  
Ian McEwan, The Children Act  
Vintage、ペーパーバック版  
ISBN: 978-0099599630。  
生協に入荷される版を購入のこと。他の版の使用は、電子書籍版も含めて、認めない。  
参考文献：  
青木和夫・丹治竜郎・安藤和弘、『知っておきたいイギリス文学』（明治書院、2010）

### オフィスアワー

オフィスアワーは火曜日の昼休みの時間帯。アポイントメントを少なくとも一週間前までに、可能であれば二週間前に取る

こと。

教員への連絡は、案件が講義内容とは関係がない場合、または純然たる私事にかかわるものである場合に限り、メールで akazuhiro002v@g.chuo-u.ac.jp まで連絡をすることができる。その場合は件名を明記し、差出人名を本名に設定する。回答を要すると判断するメールにのみ、教員は返信をする。

なお、やむを得ない理由で欠席をする場合、事前に教員へ連絡はしなくて良い。欠席理由を証明する文面なりを、事後に提示・提出すること。

### **その他特記事項**

文学史も含めて英文学についての予備知識は特に必要としない。英語力が一定レベル以上あり、文学あるいは英国文化に関心がある諸君に受講を勧める。

初回に、ここに書かれていない詳細事項も含めて、履修をする上で知っておくべきことをすべて話すので、その回は必ず出席すること。初回に欠席をすると、原則、単位の認定はしない。

### **参考URL**

### **備考**

---

**科目名： イギリス詩(1)****担当教員： 兼武 道子**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 月3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B209

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:11 更新者：AA0122

更新日時：2024-01-09 12:59:26

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

イギリス詩(1)と(2)で、ルネサンスから現代までの作品を読みます。(1)では、ルネサンスから18世紀の新古典主義までの作品を扱います。

授業では、詩の背景として、詩人とその時代や文化的な各種の事項について紹介と説明を行います。次に、文法や語句の説明を中心にして詩の注釈を示し、日本語訳を提示します。最後に詩の解釈を述べて、「意味」の重層性を味わいます。

毎回の授業の最後にmanabaを介した小テストを受けてください。

期末には、800字の小レポートを書いて提出してください。

**科目目的**

イギリスの詩を読んで歴史と文化への理解を深めるとともに、正確で柔軟な英語の力をつけること。

**到達目標**

ひとつひとつの詩について、英語を正確に読み、内容を理解し、解釈を深めること。それぞれの詩人の表現方法の違いを知ること。好きな詩を選んで、自力で課題を設定し、議論を展開できるようになること。イギリスの文化についての理解を深めること。言葉に興味を持つこと。

**授業計画と内容**

以下の予定で授業を進めてゆきます。

- 1週目 導入・ルネサンスについて
- 2週目 Philip Sydney, *‘Astrophel and Stella’* 始まりの詩
- 3週目 Philip Sydney, *‘Astrophel and Stella’* 詩を書く秘訣についての詩
- 4週目 William Shakespeare, *‘The Sonnets’* 青年貴族への詩 1
- 5週目 William Shakespeare, *‘The Sonnets’* 青年貴族への詩 2
- 6週目 William Shakespeare, *‘The Sonnets’* 青年貴族への詩 3
- 7週目 William Shakespeare, *‘The Sonnets’* Dark Ladyへの詩 1
- 8週目 William Shakespeare, *‘The Sonnets’* Dark Ladyへの詩 2
- 9週目 William Shakespeare, *‘The Sonnets’* Dark Ladyへの詩 3
- 10週目 John Donneの恋愛詩
- 11週目 John Donneの宗教詩
- 12週目 John Miltonの叙事詩
- 13週目 Alexander Popeのコミカルな叙事詩
- 14週目 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	自分で選んだ詩について、授業の内容を理解した上で、説得力ある解釈を明快に展開できているかを見ます。
平常点	60%	授業の内容を正確に理解できているかを見ます。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

manabaを通して授業で配布します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名： イギリス詩(2)****担当教員： 兼武 道子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限： 月3

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B210

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:11 更新者：AA0122

更新日時：2024-01-09 13:01:55

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

イギリス詩(1)と(2)で、ルネサンスから現代までの作品を読みます。(2)では、ロマン派から現代までの作品を扱います。

授業では、詩の背景として、詩人とその時代や文化的な各種の事項について紹介と説明を行います。次に、文法や語句の説明を中心にして詩の注釈を示し、日本語訳を提示します。最後に詩の解釈を述べて、「意味」の重層性を味わいます。

毎回の授業の最後には、manabaを介した小テストを受験してください。

期末には、800字の小レポートを書いて提出してください。

**科目目的**

イギリスの詩を読んで歴史と文化への理解を深めるとともに、正確で柔軟な英語の力をつけること。

**到達目標**

ひとつひとつの詩について、英語を正確に読み、内容を理解し、解釈を深めること。それぞれの詩人の表現方法の違いを知ること。好きな詩を選んで、自力で課題を設定し、議論を展開できるようになること。イギリスの文化についての理解を深めること。言葉に興味を持つこと。

**授業計画と内容**

以下の予定で授業を進めてゆきます。

- 1週目 導入・古典主義とロマン主義
- 2週目 William Wordsworth 対話の詩
- 3週目 William Wordsworth 叙情詩
- 4週目 William Wordsworth 思索の詩
- 5週目 William Blake 無垢と経験の詩
- 6週目 William Blake 社会批判の詩
- 7週目 William Blake 象徴的な詩
- 8週目 John Keats 観察の詩
- 9週目 Alfred Tennyson ステレオタイプ化された女性を描く詩
- 10週目 Robert Browning 個性的な人物についての詩
- 11週目 W. B. Yeats 妖精についての詩
- 12週目 W. B. Yeats 芸術についての詩
- 13週目 T. S. Eliot 自意識の詩
- 14週目 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**



中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	40%	自分で選んだ詩について、授業の内容を理解した上で、説得力ある解釈を明快に展開できているかを見ます。
平常点	60%	授業の内容を正確に理解できているかを見ます。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- ✓ タブレット端末  
その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

manabaを通して授業で配布します

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: イギリス演劇(2)

担当教員: 木村 明日香

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 金4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-B212

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:12 更新者: AA1935

更新日時: 2024-01-07 10:19:57

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本授業ではイギリスを代表する劇作家、ウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616) の戯曲を読みます。後期は有名な初期悲劇『ロミオとジュリエット』(Romeo and Juliet, ca. 1596) を扱います。各場面のあらすじ、役割、人物関係などを整理したのち、いくつかのテーマに基づき重要なセリフの分析を行います。適宜、映画や上演映像なども紹介する予定です。

**科目目的**

- \* 当該作家の作品群における本作の位置づけを理解し、他の作品との関連性を発見する。
- \* 初期近代イングランド (Early Modern England) の社会的・文化的背景を学び、同時代の作品分析に応用可能な知識を習得する。
- \* 文学批評のさまざまなアプローチを知り、他の作家の分析にも応用する力を身につける。

**到達目標**

- \* 作中の出来事や人物造型を歴史的な文脈をふまえながら正確に理解する。
- \* 各場面の役割を把握し、重要なセリフは原文でおおむね読解できる力を習得する。
- \* 作品のテーマを正しく理解し、適切な引用を用いながら、論理的な文章で説明できる。

**授業計画と内容**

※各回に読む範囲はあくまで目安です。詳細は初回授業で説明します。

第1回	導入
第2回	1幕 (1)
第3回	1幕 (2)
第4回	1幕 (3)
第5回	2幕 (1)
第6回	2幕 (2)
第7回	3幕 (1)
第8回	3幕 (2)
第9回	4幕 (1)
第10回	4幕 (2)
第11回	4幕 (3)
第12回	5幕 (1)
第13回	5幕 (2)
第14回	まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験	0%
レポート	50% 任意のテーマを立て、作品を引用しながら論じる。
平常点	50% 小テスト
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

授業時間内で講評・解説の時間を設ける

- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

質問などはmanaba「掲示板」で随時受け付けます。

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

ディスカッション、ディベート

グループワーク

プレゼンテーション

実習、フィールドワーク

その他

- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー

タブレット端末

その他

- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

はい

- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト・参考文献はすべてmanaba「コースコンテンツ」で配布します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: イギリス文学特殊講義(1)

担当教員: 木村 明日香

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 金5

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LT2-B213

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:12 更新者: AA1935

更新日時: 2024-01-09 11:24:07

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

シェイクスピア劇入門(1)

### 科目目的

さまざまな作品の概要を知ること、作家についての理解を深める。

### 到達目標

関心のある作品を見つけ、レポートで論じられる。

### 授業計画と内容

ウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616) が20年余りのキャリアで執筆した38の戯曲のうち、主要なものを紹介していきます。あらすじ、テーマ、有名なセリフなどをお話する予定です。前期は1590年代を扱います。

以下はあくまで目安です。

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 ヘンリー六世 三部作 (Henry VI, Part 1-3)
- 第3回 リチャード三世 (Richard III)
- 第4回 間違いの喜劇 (Comedy of Errors)
- 第5回 タイタス・アンドロニカス (Titus Andronicus)
- 第6回 じゃじゃ馬ならし (Taming of the Shrew)
- 第7回 映画鑑賞①
- 第8回 映画鑑賞②
- 第9回 ロミオとジュリエット (Romeo and Juliet)
- 第10回 夏の夜の夢 (A Midsummer Night's Dream)
- 第11回 ヴェニス商人 (Merchant of Venice)
- 第12回 ジョン王 (King John)
- 第13回 ヘンリー四世 (Henry IV)
- 第14回 ジュリアス・シーザー (Julius Caesar)

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 70% 1~2作品読み、論じてもらいます。
- 平常点 30% 課題を出します。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

授業でプリントを配布します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: イギリス文学特殊講義(2)

担当教員: 木村 明日香

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 金5

配当年次: 2~4年次担当

科目ナンバー: LE-LT2-B214

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:12 更新者: AA1935

更新日時: 2024-01-09 11:23:47

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

シェイクスピア劇入門(2)

### 科目目的

さまざまな作品の概要を知ること、作家についての理解を深める。

### 到達目標

関心のある作品を見つけ、レポートで論じられる。

### 授業計画と内容

ウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare, 1564-1616) が20年余りのキャリアで執筆した38の戯曲のうち、主要なものを紹介していきます。あらすじ、テーマ、有名なセリフなどをお話する予定です。後期は1600年代を扱います。

以下はあくまで目安です。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 ハムレット (Hamlet)
- 第3回 お気に召すまま (As You Like It)
- 第4回 十二夜 (Twelfth Night)
- 第5回 ウィンザーの陽気な女房たち (Merry Wives of Windsor)
- 第6回 マクベス (Macbeth)
- 第7回 映画鑑賞①
- 第8回 映画鑑賞②
- 第9回 終わりよければすべてよし (All's Well that Ends Well)
- 第10回 オセロー (Othello)
- 第11回 リア王 (King Lear)
- 第12回 コリオレイナス (Coriolanus)
- 第13回 アントニーとクレオパトラ (Anthony and Cleopatra)
- 第14回 テンペスト (Tempest)

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 0%
- レポート 70% 1~2作品読み、論じてもらいます。
- 平常点 30% 課題を出します。
- その他 0%

**成績評価の方法・基準(備考)**

**課題や試験のフィードバック方法**

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

**課題や試験のフィードバック方法(その他)**

**アクティブ・ラーニングの実施内容**

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

**アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)**

**授業におけるICTの活用方法**

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

**授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)**

**実務経験のある教員による授業**

- はい
- ✓ いいえ

**【実務経験有の場合】実務経験の内容**

**実務経験に関連する授業内容**

**テキスト・参考文献等**

授業でプリントを配布します。

**オフィスアワー**

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

**科目名： アメリカの文化(1)****担当教員： 中尾 秀博**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水4

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-EX1-B301

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:13 更新者：AA9336

更新日時：2024-01-24 10:47:43

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

基本的に毎回ひとつのトピックやテーマを設定します。とりあげる予定のトピックやテーマは大半がハリウッド映画やポップスなどのポピュラー・カルチャー関連のものになります。

毎回のトピックやテーマについては授業支援システム manaba の「コースニュース」で予告します。そのトピックやテーマの理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます（ワークシートには段階的に五つ程度の作業が指定されています）。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料をダウンロードして、オーディオやビジュアルの素材に触れることで、トピックやテーマの理解を深めてもらいます。関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的な理解の深度が違ってくることを忘れないでください。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したナレーション付きのスライド解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

最後にワークシートのQUIZの解答を「アンケート」に投稿してもらいます。400字以上で解答してもらいますので、提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

**科目目的**

- 「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」
- \*具体的には各回の講義のテーマやトピック（映画・音楽・出来事など）に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
- \*そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べる
- \*調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる

**到達目標**

「アメリカにおける文化の多様性についての理解を深める」ことを通じて以下の達成を目指す

- \*具体的には各回の講義のテーマやトピック（映画・音楽・出来事など）に応じて文化の多様性の起源や現状を知ること
- \*そこから各人の興味関心に応じて更に深く調べる
- \*調べたことに基づいて自分なりの分析を試みる
- 以上を通じて獲得した知見を文章化すること（毎回のQUIZ解答および中間・期末レポート）で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようになる

**授業計画と内容**

初回と最終回は「イントロダクション」と「リキャピチュレーション」にあてます。  
第7回は前半のおさらい 第13回は後半のおさらいをしてもらいます

- 第1回：アメリカにおける人種・言語・文化の多様性（イントロダクションに代えて）
- 第2回：ディズニー作品にみる多文化社会アメリカの現実との齟齬を隠蔽する「建国神話」
- 第3回：米国の風景写真の変遷
- 第4回：映画『ウェスト・サイド物語』とアメリカ性の虚構性：今世紀の対立を予見し、作品内で提示された融合の可能性の困難さ
- 第5回：映画『スーパーマン』のアメリカ性：非現実的でありながらも大衆の夢の象徴としての存在
- 第6回：ポップスの起源：アフリカ系・アイルランド系・ユダヤ系のルーツを具体的な楽曲で確認する
- 第7回：前半（第2回から第6回）のおさらい
- 第8回：「キング・オブ・ロックンロール」エルビス・プレスリーの楽曲の変遷について
- 第9回：1960年代のヒット曲（ビルボード・チャート）とその時代背景
- 第10回：ハリウッド映画におけるベトナム戦争の表象（アジア・アジア人のイメージ）
- 第11回：ポップアートのアメリカ性
- 第12回：「キング・オブ・ポップ」マイケル・ジャクソンの楽曲の変遷について
- 第13回：後半（第8回から第12回）のおさらい
- 第14回：全体の総括（リキャピチュレーションとして）



### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60% 各回のワークシートQUIZの解答の集計 (必ず400字以上で解答すること)
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

中間・期末のレポートを提出していても  
授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。  
(QUIZの解答提出で出席チェックとします)

毎回のQUIZの解答も中間・期末のレポートも  
規定の文字数制限を遵守すること!  
(規定を満たさない場合は未提出扱いとします)  
提出前に丁寧に読み直してケアレスミスをチェックすることを怠らないように!

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
- ✓ タブレット端末
- その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

Malcolm Bradbury, ed. Introduction to American Studies (Longman, 1998)

### オフィスアワー

### その他特記事項

履修者への要望：おもにアメリカのポップ・カルチャーを扱うからといって、かならずしも肯定的で、ノータンキな話に終始するわけではありません。直感的な好ききらいにとらわれたり、喰わずぎらいをしないようにしてください。各回の講義をヒントにして自分でも調べて、考えて、まとめる作業が重要です。

### 参考URL

### 備考

この科目はオンライン形式です。この科目は教職（英語）の必修科目です。※2020年度入学生まで対象

---

科目名: アメリカ文学史(1)

担当教員: 高尾 直知

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 2・3年次担当

科目ナンバー: LE-LT2-B303

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:13 更新者: AA0019

更新日時: 2024-01-06 11:04:57

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

人数にもよりますが、参加者による発表と教員による解説を組みあわせておこないます。毎回当該テーマに関するテキストについての発表と解説をおこないます。

### 科目目的

19世紀までのアメリカ文学を通観して、その時代の文学を研究するための基礎的知識を養います。

### 到達目標

19世紀までのアメリカ文学の概要を理解し、個別の作家について基礎的知識を得る。

### 授業計画と内容

- 第1回: インTRODクシヨン
- 第2回: ピューリタニズム1 (ウィンスロプ)
- 第3回: ピューリタニズム2 (ハッチンソン)
- 第4回: トランセンデンタリズム1 (エマソン)
- 第5回: トランセンデンタリズム2 (ソロー)
- 第6回: アメリカン・ルネサンス1 (ホーソーン)
- 第7回: アメリカン・ルネサンス2 (メルヴィル)
- 第8回: アメリカン・ルネサンス3 (ポー)
- 第9回: アメリカン・ルネサンス4 (ホイットマン)
- 第10回: 南北戦争1 (ストウ)
- 第11回: 南北戦争2 (リンカン)
- 第12回: リアリズム1 (ジェームズ)
- 第13回: リアリズム2 (トウェイン)
- 第14回: 自然主義 (ドライサー) とまとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%
- 期末試験 40% 提示されたパッセージについて、作家名作品名出版年の指摘と、文学史的意味を問う。
- レポート 0%
- 平常点 30% 毎回のリアクション・ペーパーによる。
- その他 30% 発表の内容の評価による。

## 成績評価の方法・基準(備考)

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク
- ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト：必要なPDFを配布します。テキストはコースコンテンツからダウンロードできます。  
参考書・参考資料等：  
竹内理矢・山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学——源流と展開』（ミネルヴァ書房）  
大橋健三郎ほか編『総説アメリカ文学史』（研究社）

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

## 備考

この科目は教職（英語）の必修科目です。

---

科目名：アメリカ文学史(2)

担当教員：中野 学而

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B304

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:14 更新者：AA1540

更新日時：2024-01-08 20:57:30

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

20世紀アメリカ文学の流れを概観します。講義形式で進めますが、作品からの抜粋などを読む際には、受講者にも解釈や意見を述べてもらうこともあります。また毎回の授業の終わりに、マナバへの投稿として、あるいは紙媒体として、レスポンス・ペーパーを提出してもらいます。

**科目目的**

20世紀アメリカ文学の流れをさまざまな問題意識から概観することで、現代社会に通じる問題点に主体的かつ複眼的に取り組むための基礎的な態度を身につける。

**到達目標**

20世紀アメリカ文学の基礎的な知識が身についたか。現代社会における問題点に主体的に取り組む姿勢が身についたか。

**授業計画と内容**

授業計画

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：第一次大戦前夜——進化論、フロイト、マルクスの衝撃
- 第3回：モダニズム(1) Ernest Hemingway
- 第4回：モダニズム(2) F. Scott Fitzgerald
- 第5回：William Faulknerとアメリカ南部文学
- 第6回：1930年代のアメリカ文学
- 第7回：ハーレム・ルネサンス
- 第8回：アメリカ南部の女性作家
- 第9回：ユダヤ系アメリカ文学
- 第10回：カウンター・カルチャーとアメリカ文学
- 第11回：アフリカン・アメリカンの文学(1) リチャード・ライト
- 第12回：アフリカン・アメリカンの文学(2) トニ・モリスン
- 第13回：ネイティブ・アメリカンとアメリカ文学、ポストモダニズム以降のアメリカ文学
- 第14回：まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	50%	20世紀アメリカ文学の基礎的な知識が習得できたかどうかを見ます。
レポート	0%	
平常点	50%	レスポンスペーパーを通じ、授業の内容を踏まえて主体的に問題意識を表現することができているかを見ます。なお、5回以上の欠席のあったものは評価の対象とはしません。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク
  - ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

竹内理矢、山本洋平編著『深まりゆくアメリカ文学』ミネルヴァ書房、2021年。  
ISBN 978-4-623-09077-8

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

---

**科目名：近代アメリカ小説(1)**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：水1

**担当教員：高尾 直知**

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B305

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:14 更新者：AA0019

更新日時：2024-01-06 11:12:11

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

ことしは、少女小説の草分けともいえるLouisa May Alcott (1832-88)の『若草物語』を読みます。前期は第一部を扱います。オルコットといってもいわゆる「少女趣味」(この語の持つ性差別的な響きはさておいて)な授業をおこなうということではなくて、作家が作品の中でいかにジェンダー・ストラテジーを発揮して物語構成を交渉しているかという点に注目しながら、作品を批判的に読むことを学びます。授業の形式は、発表者の方に、(1)担当の範囲(短編ひとつを前半、後半に分けます)の要約、(2)範囲内で理解しにくいと思われる語句の解説、(3)重要と思われるテーマについて発表していただきます。そのうち、教員による解説とディスカッションをおこなうという形で進めていきます。

**科目目的**

19世紀女性作家の作品研究を通じて、女性的作家性のあり方を探ります。作家が作品の中でいかにジェンダー・ストラテジーを発揮して物語構成を交渉しているかという点に注目しながら、作品を批判的に読むことを学びます。

**到達目標**

19世紀アメリカの小説作品の読みかたを鍛え、それについての議論のポイントを見つけ、さらにその議論を有効なものとして組み立てる能力を身につけます。

**授業計画と内容**

1. インTRODクシヨン 『若草物語』と「魔女の呪い」
2. 第1部 第1章、第2章
3. 第1部 第3章、第4章
4. 第1部 第5章、第6章
5. 第1部 第7章、第8章
6. 第1部 第9章、第10章
7. 第1部 第11章、第12章
8. 第1部 第13章、第14章
9. 第1部 第15章、第16章
10. 第1部 第17章、第18章
11. 第1部 第19章、第20章
12. 第1部 第21章、第22章
13. 第1部 第23章
14. ここまでの議論と、結婚のテーマについての分析

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験、期末試験、レポート、平常点、その他)**

- |      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 中間試験 | 0%                                |
| 期末試験 | 0%                                |
| レポート | 40% 扱った作品についてオリジナルな議論を提示しているかどうか。 |

- 平常点 30% 授業中やリアクションペーパーに、自分の意見を明確に述べて、作品解釈の構築に資する発言・コメントをおこなったかどうか。
- その他 30% 授業中の発表において、自身の作品解釈を明確に提示して、その論拠をしめすことができたかどうか。

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
  - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
  - グループワーク
  - ✓ プレゼンテーション
  - 実習、フィールドワーク
  - その他
  - 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：pdfをmanabaで配布します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



**科目名： 近代アメリカ小説(2)**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水1

**担当教員： 高尾 直知**

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B306

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:14 更新者：AA0019

更新日時：2024-01-06 11:11:33

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

ことは、少女小説の草分けともいえるLouisa May Alcott (1832-88)の『若草物語』を読みます。後期は第二部を扱います。オルコットといってもいわゆる「少女趣味」(この語の持つ性差別的な響きはさておいて)な授業をおこなうということではなくて、作家が作品の中でいかにジェンダー・ストラテジーを発揮して物語構成を交渉しているかという点に注目しながら、作品を批判的に読むことを学びます。授業の形式は、発表者の方に、(1)担当の範囲(1章程度)の要約、(2)範囲内で理解しにくいと思われる語句の解説、(3)重要と思われるテーマについて発表していただきます。そののち、教員による解説とディスカッションをおこなうという形で進めていきます。

**科目目的**

作家が作品の中でいかにジェンダー・ストラテジーを発揮して物語構成を交渉しているかという点に注目しながら、作品を批判的に読むことを学びます。

**到達目標**

19世紀アメリカの小説作品の読みかたを鍛え、それについての議論のポイントを見つけ、さらにその議論を有効なものとして組み立てる能力を身につけます。

**授業計画と内容**

1. インTRODクシヨン 第1部のまとめ
2. 第2部 第1章、第2章
3. 第2部 第3章、第4章
4. 第2部 第5章、第6章
5. 第2部 第7章、第8章
6. 第2部 第9章、第10章
7. 第2部 第11章、第12章
8. 第2部 第13章、第14章
9. 第2部 第15章、第16章
10. 第2部 第17章、第18章
11. 第2部 第19章、第20章
12. 第2部 第21章、第22章
13. 第2部 第23章、第24章
14. まとめの議論と、あらためて結婚のテーマについての分析

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 中間試験 | 0%                                |
| 期末試験 | 0%                                |
| レポート | 40% 扱った作品についてオリジナルな議論を提示しているかどうか。 |

- 平常点 30% 授業中やリアクションペーパーに、自分の意見を明確に述べて、作品解釈の構築に資する発言・コメントをおこなったかどうか。
- その他 30% 授業中の発表において、自身の作品解釈を明確に提示して、その論拠をしめすことができたかどうか。

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
  - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
  - グループワーク
  - ✓ プレゼンテーション
  - 実習、フィールドワーク
  - その他
  - 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：pdfをmanabaで配布します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 現代アメリカ小説(1)

担当教員： デール、ジョシュア ポール

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 2~4年次担当

科目ナンバー： LE-LT2-B307

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:15

更新者： AA2231

更新日時： 2024-01-09 13:20:56

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

In this class we will read three short stories by the African American science fiction writer Octavia Butler. We will discuss issues of race, class and gender as well as the acceptance of people with disabilities in American culture. The class format will be lecture and discussion. Class requirements include short writing assignments, an oral presentation, and a final report.

**科目目的**

Students will deepen their understanding of the diversity of American society and learn how to analyze American works of literature.

**到達目標**

Students will learn how to interpret literary works and study American culture. They will practice presenting their own arguments in oral presentations and in discussion. Students will improve their English ability, critical thinking and speaking skills.

**授業計画と内容**

1. Introduction
2. Lecture on Octavia Butler
3. "The Evening and the Morning and the Night"
4. "The Evening and the Morning and the Night"
5. "The Evening and the Morning and the Night"
6. Short videos about hip hop dancer and performance artist Bill Shannon aka "Crutchmaster"
7. "Bloodchild"
8. "Bloodchild"
9. "Bloodchild"
10. Oral presentations, day 1
11. Oral presentations, day 2
12. "Speech Sounds"
13. "Speech Sounds"
14. Last lecture and discussion

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・ 毎週 1 回の授業が半期 (前期または後期) または通年で完結するもの。1 週間あたり 4 時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週 2 回の授業が半期 (前期または後期) で完結するもの。1 週間あたり 8 時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |     |  |
|------|-----|--|
| 中間試験 | 0%  |  |
| 期末試験 | 0%  |  |
| レポート | 60% | The final report must include an original argument. Reports will be evaluated on clear and |

logical structure and content.

平常点 25% Oral presentation(s)

その他 15% Short writing assignments

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

Texts will be posted to manaba.

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 現代アメリカ小説(2)

担当教員： デール、ジョシュア ポール

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 月3

配当年次： 2~4年次配当

科目ナンバー： LE-LT2-B308

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:15 更新者： AA2231

更新日時： 2024-01-09 13:21:02

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

In this course we will discuss the differences in the image of robots and artificial intelligence (AI) between the United States and Japan. We will read three science fiction stories: Sarah Pinsker, "Bigger Fish," Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds" and Alastair Reynolds, "Polished Performance". Analyzing the image of robots and AI in the United States will enable us to analyze broad themes connected to American culture. The class will focus on student presentations and discussion.

**科目目的**

The aim of this course is to improve students' ability to analyze both literature and culture. We will study how literature address questions such as what it means to be human.

**到達目標**

Students will improve their English ability, critical thinking and oral discussion / presentation skills. They will also learn how to critically analyze literary texts.

**授業計画と内容**

1. Introduction
2. Laws of Robotics: Isaac Asimov vs. Tezuka Osamu
3. Lecture/discussion on the image of robots and AI in the USA and Japan
4. Sarah Pinker, "Bigger Fish"
5. Sarah Pinker, "Bigger Fish"
6. Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
7. Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
8. Vina Jie-Min Prasad, "A Guide for Working Breeds"
9. Oral presentations, day 1
10. Alastair Reynolds, "Polished Performance"
11. Alastair Reynolds, "Polished Performance"
12. Alastair Reynolds, "Polished Performance"
13. Emotion modeling in real robots: aibo and LOVOT
14. Last lecture and course conclusion

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	0%	
レポート	60%	The final report must include an original argument. Reports will be evaluated on clear and logical structure and content.

平常点 25% Oral presentation(s)  
その他 15% Short writing assignments

**成績評価の方法・基準(備考)**

**課題や試験のフィードバック方法**

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

**課題や試験のフィードバック方法(その他)**

**アクティブ・ラーニングの実施内容**

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

**アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)**

**授業におけるICTの活用方法**

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

**授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)**

**実務経験のある教員による授業**

- はい
- ✓ いいえ

**【実務経験有の場合】実務経験の内容**

**実務経験に関連する授業内容**

**テキスト・参考文献等**

Texts will be handed out by the instructor.

**オフィスアワー**

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

---

科目名: アメリカ文学特殊研究(1)

担当教員: デール、ジョシュア ポール

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次担当

科目ナンバー: LE-EX2-B309

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:15 更新者: AA2231

更新日時: 2024-01-09 13:21:12

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

This course will investigate how Japanese American identity has transformed across different generations. More broadly, it considers what it means to be "American" in a multicultural society. We will read two graphic novels written by Japanese Americans from different generations: They Called Us Enemy by George Takei and Himawari House by Harmony Becker.

Each week a small group of students will begin the class by giving a short presentation and leading the discussion of the reading assignment for that week. We will read both novels at the same time. Every class will begin with a student presentation on each book. In addition, we will read and discuss a few academic articles on Japanese American history.

**科目目的**

The purpose of this course is to learn about the history of Japanese Americans and issues surrounding their presence and participation in multicultural America. Students will improve both their ability to make presentations in English and their critical thinking skills.

**到達目標**

Students will improve their English ability, critical thinking and oral discussion / presentation skills. They will also learn how to critically analyze literary texts.

**授業計画と内容**

1. Introduction
2. Himawari House (HH) chapters 1-2; They Called Us Enemy pp. 1-20
3. HH chapters 3-4; Enemy pp. 21-40
4. HH chapters 5-6; Enemy pp. 41-60.
5. HH chapters 7-8; Enemy pp. 61-80.
6. HH chapters 9-10; Enemy pp. 81-100.
7. HH chapters 11-12; Enemy pp. 101-120.
8. HH chapters 13-14; Enemy pp. 121-140.
9. HH chapters 15-16; Enemy pp. 141-160.
10. HH chapters 17-18; Enemy pp. 161-180.
11. HH chapters 19-21; Enemy pp. 181-205.
12. Discussion of final reports
13. Discussion of final reports, day 2
14. Final lecture and discussion on the theme of ethnicity in multicultural societies.

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験  
期末試験  
レポート  
平常点  
その他

”” ””  
”” ””

”60”, ”The final report must include an original argument. Reports will be evaluated on clear and logical structure and content.”

”25”, ”Oral presentation(s)”

”15”, ”Short written assignments”

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- 実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

クリッカー  
タブレット端末  
その他

- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

The following books are available at the student co-op:

Becker, Harmony. Himawari House. First Second Books. 2021. New York. ISBN 125023557X

Takei, George. They Called Us Enemy. Top Shelf Productions. 2019. Marietta, Georgia. ISBN 1603094504

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL





科目名: アメリカ文学文化研究(1)

担当教員: 久保 尚美

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 2~4年次担当

科目ナンバー: LE-EX2-B311

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:16 更新者: AA1440

更新日時: 2024-01-05 11:17:20

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

アメリカ社会における人種と差別の問題に関して、19世紀に書かれた奴隷体験記(スレイヴ・ナラティブ)、20世紀前半に書かれた黒人文学作品などを取り上げ、文化・政治・ジェンダーといった側面から考えます。受講生は各回ごとに示される課題に取り組むことで理解を深めていきます。

### 科目目的

アメリカ社会における人種の問題の背景を学ぶとともに、それがどのように自伝や文学作品に示されているかを読み解く。

### 到達目標

- ・アメリカ社会の多様性について理解を深める。
- ・アメリカ文学作品を分析するにあたり、必要な専門知識の基礎を学ぶ。
- ・学んだ知見にもとづいて文学作品を解釈し、自分の言葉で表現する力を身につける。

### 授業計画と内容

- 第1回: インTRODクシヨン、奴隷制と奴隷体験記
- 第2回: Frederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass, an American Slave 抜粋
- 第3回: Harriet Ann Jacobs, Incidents in the Life of a Slave Girl 抜粋
- 第4回: 奴隷制度廃止と人種隔離政策
- 第5回: Booker T. WashingtonとW. E. B. DuBois
- 第6回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ①
- 第7回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ②
- 第8回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ③
- 第9回: Richard Wright, "The Ethics of Living Jim Crow" ④
- 第10回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ①
- 第11回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ②
- 第12回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ③
- 第13回: Ralph Ellison, "Battle Royal" ④
- 第14回: まとめ

\*授業の進度により、第6回から第13回で扱う文学作品を変更する可能性があります。

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

授業終了後の課題提出

- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

授業で紹介する文献や関連する作品を読むこと  
期末試験に向けた準備をすること

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験 0%

期末試験	50%	期末試験の得点により授業の理解度を評価します。 ・授業で扱う歴史的／文化的事項や概念を理解し、適切に説明できるか。 ・授業で扱うテキストを読み解き、その解釈を説得的に示すことができるか。
レポート	0%	
平常点	50%	各回の考察課題（レスポンスシート）への取り組みが主たる評価対象となります。なお受講者数によっては、個別に考察発表をしてもらい（1人1回）、その内容も評価対象となります。 ・講義内容を踏まえた考察がなされているか。 ・自分の考えを適切な文章で書くことができているか。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席回数（毎回の考察課題提出回数）が70%に満たないものは、この授業の成績評価対象にならず「不可」となります。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

授業内で資料を配付します。  
関連する文献等については、授業内で紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: アメリカ文学文化研究(2)

担当教員: 久保 尚美

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 火4

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-EX2-B312

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:16 更新者: AA1440

更新日時: 2024-01-05 11:18:06

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

アメリカの人種問題における白人性について、白人の作家や思想家の書いた文学作品やエッセイを読んで考察します。受講生は各回ごとに示される課題に取り組むことで理解を深めていきます。

### 科目目的

アメリカ社会における人種の問題の背景を学ぶとともに、それがどのようにエッセイや文学作品に示されているかを読み解く。

### 到達目標

- ・アメリカ社会の多様性について理解を深める。
- ・アメリカ文学作品を分析するにあたり、必要な専門知識の基礎を学ぶ。
- ・学んだ知見にもとづいて文学作品を解釈し、自分の言葉で表現する力を身につける。

### 授業計画と内容

- 第1回: イントロダクション、アメリカ社会と人種問題 (1) 南北戦争以前
- 第2回: アメリカ社会と人種問題 (2) 南北戦争前後
- 第3回: アメリカ社会と人種問題 (3) 公民権運動 1
- 第4回: アメリカ社会と人種問題 (4) 公民権運動 2
- 第5回: William Faulkner, "Dry September," pp. 169-173
- 第6回: William Faulkner, "Dry September," pp. 173-175
- 第7回: William Faulkner, "Dry September," pp. 175-180
- 第8回: William Faulkner, "Dry September," pp. 180-183
- 第9回: Flannery O' Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 405-408
- 第10回: Flannery O' Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 408-412
- 第11回: Flannery O' Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 412-414
- 第12回: Flannery O' Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 413-417
- 第13回: Flannery O' Connor, "Everything That Rises Must Converge," pp. 417-420
- 第14回: まとめ

\*授業の進度により、第5回から第13回で扱う文学作品を変更する可能性があります。

### 授業時間外の学修の内容

- 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出

- ✓ その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

- 授業で紹介する文献や関連する作品を読むこと
- 期末試験に向けた準備をすること

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- 中間試験 0%

期末試験	50%	期末試験の得点により授業の理解度を評価します。 ・授業で扱う歴史的／文化的事項や概念を理解し、適切に説明できるか。 ・授業で扱うテキストを読み解き、その解釈を説得的に示すことができるか。
レポート	0%	
平常点	50%	各回の考察課題（レスポンスシート）への取り組みが主たる評価対象となります。なお受講者数によっては、個別に考察発表をしてもらい（1人1回）、その内容も評価対象となります ・講義内容を踏まえた考察がなされているか。 ・自分の考えを適切な文章で書くことができているか。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

出席回数（毎回の課題提出回数）が70%に満たないものは、この授業の成績評価対象にならず「不可」となります。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL（課題解決型学習）
- 反転授業（教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式）
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

manabaを用いて資料を配付します。  
関連する文献等については、授業内で紹介します。

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

**科目名：世界の英語文学(2)****担当教員：中尾 秀博**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水2

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LT2-B382

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:17 更新者：AA9336

更新日時：2024-01-24 10:48:33

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

「世界の英語文学(2)」では、ニュージーランドおよび太平洋諸島の英語圏文学を概観する予定です。なるべく多くの作品を、なるべくいいねに見てゆくといいという両立しがたい企てをいくぶんか達成するために、講義ではおもに短篇をとりあげることになるでしょう。映像作品も紹介できればと思っています。

講義でとりあげる短篇のテキストは授業支援システム manaba の「コースコンテンツ」に掲載します。その短篇の理解を深めるために「コースコンテンツ」に掲載したワークシートに従って作業を進めてもらいます(ワークシートには段階的に五つ程度の作業が指定されています)。

同じく「コースコンテンツ」に掲載したワークシート解説を手引としてワークシートの各作業を進めてください。

作業にあたっては、「コースコンテンツ」に掲載した関連資料を丁寧に読み込むことで、各作業の意義が深まり、最終的な理解の深度が違ってくることを忘れないでください。

最後にワークシートのQUIZの解答を「アンケート」に投稿してもらいます。400字以上で解答してもらいますので、提出期限から逆算して、十分な時間を確保してください。

**科目目的**

- ニュージーランドおよび太平洋諸島の英語圏文学を概観する
- 具体的には
  - \*各地域・各国の短篇作品を読解する
  - \*作者の経歴や他作品についても概観する
  - \*各地域・各国の歴史的・社会的・文化的背景を理解する
  - \*その過程で映像作品などの紹介も行う

**到達目標**

「ニュージーランドおよび太平洋諸島の英語圏文学を概観する」ことを通して(作品および作家の理解を深めることで)各地域・各国の歴史的・社会的・文化的背景な理解を重層化する過程で獲得した知見を文章化すること(レポート)で自分の考えを説得的・客観的に整理・伝達できるようになる

**授業計画と内容**

- 第1回：イントロダクション 植民地主義と"White Man's Burden"
- 第2回："White Man's Burden"とその変装
- 第3回：ニュージーランド短篇小説1 "A Dalmatian Woman"
- 第4回：ニュージーランド短篇小説2 "The Totara Tree"
- 第5回：ニュージーランド短篇小説3 "The Voyage"
- 第6回：ニュージーランド短篇小説4 "How Pearl Button Was Kidnapped"
- 第7回：前半のおさらい
- 第8回：ニュージーランド短篇小説5 "The Affectionate Kidnappers"
- 第9回：ニュージーランド短篇小説6 "Dark Jelly"
- 第10回：太平洋諸島の短篇小説1 "The Boat Girl"
- 第11回：太平洋諸島の短篇小説2 "The Coming of the White Man" (前半)
- 第12回：太平洋諸島の短篇小説3 "The Coming of the White Man" (後半)
- 第13回：後半のおさらい
- 第14回：総まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

## 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	0%
期末試験	0%
レポート	40% 中間・期末レポートの完成度(着眼・論理展開・文章表現など)
平常点	60% 各回の講義内容へのコメントやアンケートの回答など
その他	0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

中間・期末のレポートを提出していても  
授業回数の1/3以上欠席した場合は成績評価の対象となりません。  
(QUIZの解答提出で出席チェックとします)

毎回のQUIZの解答も中間・期末のレポートも  
規定の文字数制限を遵守すること!  
(規定を満たさない場合は未提出扱いとします)  
提出前に丁寧に読み直してケアレスミスをチェックすることを怠らないように!

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
  - ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う
- その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- ✓ PBL(課題解決型学習)
- ✓ 反転授業(教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- ✓ クリッカー
  - ✓ タブレット端末
- その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキストはPDFまたはプリントを配布(manaba「コンテンツ」格納)し、参考文献等は随時、授業時に紹介する

### オフィスアワー

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

この科目はオンライン形式です。

---



**科目名： 英語学概説(1)****担当教員： 松井 智子**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限：木1

配当年次：1・2年次配当

科目ナンバー：LE-LG1-B401

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:18 更新者：AA2131

更新日時：2024-01-08 12:17:08

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

英語学は、単なる英語の分析にとどまらず、他の隣接科学とも提携しながら人間についての深い理解を目指す基礎学問の一つとして位置づけられる。言語が人間にとってどのようなものであるかという視点を失わないで、英語学の様々な分野へ足を踏み入れていきながら、確かな英語理解と発展的な問題意識を身につけることを目指したい。

**科目目的**

言語とはどういうものかについて、英語（また日本語との比較）を題材にして学ぶ。

**到達目標**

英語学に関する基本的な用語や概念を理解する。

**授業計画と内容**

講義形式で英語学・言語学の主要テーマを順次話していく。

1. Introduction to English Linguistics
2. The origins of language
3. Animals and human language
4. The sounds of language
5. The sound patterns of language
6. Differences between English sounds and Japanese sounds
7. Word formation
8. Morphology (Introduction)
9. Differences between English words and Japanese words
10. Grammar
11. Syntax
12. Semantics
13. Pragmatics
14. Summary and Review

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験 50% 90-100 優れている。用語や概念を十分に理解し、授業内容を論理的に組み立て、独自の証拠や考察を加えて議論している。

80-90 とても良い。用語や概念の理解に不十分な点は見られず、授業で扱った内容をカバーできている。

70-80 良い。重要な用語や概念は理解している。考察や表現において不十分な点があるものの、論理や証拠

に支えられた独自の考察がある。  
60-70 合格。用語や概念の理解に問題が見られるものの、授業で扱った内容の理解が明らかである。  
0-60 不合格。用語や概念の理解に誤りがあり、論理性や証拠に欠ける。授業の内容を理解しているとは考えにくい。

レポート	0%	
平常点	50%	毎回の授業レポート ★授業レポートの提出は10回の予定。1回の提出が5点。 授業レポートの点数 Excellent (内容をよく理解し、さらに自分で調べたこと、考えたことが良くわかる) 5点 Very Good (内容を理解し、自分で考えた部分がある) 4点 Good (内容がほぼ理解できており、自分で考えた努力が見られる) 3点 Not Good (内容の理解に問題がある) 2点  Submitted (内容の理解が乏しい) 1点 ★毎回出しても平均2点以下では単位は出ない。
その他	0%	

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：授業中に指示します。

参考文献:

Yule, G. (2020) The Study of Language, 7th edition. Cambridge University Press

大津由紀雄ほか監修 (2021) 「言語研究の世界」 研究社

窪園晴夫 (2019) 「よくわかる言語学」 ミネルヴァ書房

他にも随時紹介します。

**オフィスアワー**

**その他特記事項**

**参考URL**

**備考**

この科目は教職（英語）の必修科目です。

---

**科目名： 英語学概説(2)****担当教員： 松井 智子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木1

配当年次：1・2年次担当

科目ナンバー：LE-LG1-B402

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:18 更新者：AA2131

更新日時：2024-01-08 12:18:13

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

現代の英語学は、単なる英語の分析にとどまらず、他の隣接科学とも連携しながら人間についての深い理解を目指す基礎学問の一つとして位置づけられる。言語が人間にとってどのようなものであるかという基本的な問題意識を持続させて英語学のさまざまな分野へ足を踏み入れていながら、正確な英語理解と発展的な問題意識を身につけることを目指したい。

**科目目的**

言語とはどういうものかについて、英語（また日本語との比較）を題材にして学ぶ。

**到達目標**

英語学に関する基本的な用語や概念を理解する。

**授業計画と内容**

講義形式で英語学・言語学の主要テーマを順次話していく。

1. Introduction to English linguistics: Its use and acquisition
2. Discourse analysis
3. Language and the brain
4. First language acquisition
5. Second language acquisition/learning
6. System underlying language acquisition
7. Language learning and language teaching
8. Gestures and sign languages
9. Written language
10. Language history and change
11. Regional variation in language
12. Social variation in language
13. Language and culture
14. Summary and Review

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期（前期または後期）または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期（前期または後期）で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験 0%

期末試験 50% 90-100 優れている。用語や概念を十分に理解し、授業内容を論理的に組み立て、独自の証拠や考察を加えて議論している。  
80-90 とても良い。用語や概念の理解に不十分な点は見られず、授業で扱った内容をカバーできている。  
70-80 良い。重要な用語や概念は理解している。考察や表現において不十分な点があるものの、論理や証拠に支えられた独自の考察がある。  
60-70 合格。用語や概念の理解に問題が見られるものの、授業で扱った内容の理解が明らかである。

0-60 不合格。用語や概念の理解に誤りがあり、論理性や証拠に欠ける。授業の内容を理解しているとは考えにくい。

レポート 0%

平常点 50% 毎回の授業レポート  
★授業レポートの提出は10回の予定。1回の提出が5点。  
授業レポートの点数  
Excellent (内容をよく理解し、さらに自分で調べたこと、考えたことが良くわかる) 5点  
Very Good (内容を理解し、自分で考えた部分がある) 4点  
Good (内容がほぼ理解できており、自分で考えた努力が見られる) 3点  
Not Good (内容の理解に問題がある) 2点  
Submitted (内容の理解が乏しい) 1点  
★毎回出しても平均2点以下では単位は出ない。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：授業中に指示します。

参考文献：

Yule, G. (2020) The Study of Language, 7th edition. Cambridge University Press

大津由紀雄ほか監修 (2021) 「言語研究の世界」 研究社

窪園晴夫 (2019) 「よくわかる言語学」 ミネルヴァ書房

他にも随時紹介します。

### オフィスアワー

その他特記事項

参考URL

備考

---

**科目名： 英語史(1)****担当教員： 福元 広二**

履修年度：2024 学期：前期

開講曜日時限： 木3

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B403

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:18 更新者： AD1723

更新日時： 2023-12-31 11:20:04

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。前期は前史から中英語期までを、後期は中英語期から現代英語期までを扱う。

**科目目的**

英語の歴史を学ぶことで、現代英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

**到達目標**

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。  
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 世界語としての英語
- 第3回 英語外面史の概観
- 第4回 インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
- 第5回 古英語期における社会的・文化的時代背景
- 第6回 古英語の名詞
- 第7回 古英語の代名詞
- 第8回 古英語の形容詞・副詞
- 第9回 古英語の動詞活用
- 第10回 古英語の語順・否定
- 第11回 古英語の作品講読
- 第12回 中英語期における社会的・文化的時代背景
- 第13回 中英語の名詞・形容詞
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 英語史の基礎知識を理解した上で、英語の特徴を英語史的観点から説明できるかどうかを評価します。
- レポート 0%
- 平常点 40% 授業への参加・貢献度、ミニッツ・ペーパーの取り組みの状況を基準とします。
- その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提基準：出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト  
松浪有 (1986) 『英語学コース1 英語史』大修館

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

---



**科目名： 英語史(2)****担当教員： 福元 広二**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：木3

配当年次：2・3年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B404

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:19 更新者：AD1723

更新日時：2023-12-31 11:23:20

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約1500年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。前期は前史から中英語期までを、後期は中英語期から現代英語期までを扱う。

**科目目的**

英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

**到達目標**

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。  
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

**授業計画と内容**

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 中英語の動詞
- 第3回 中英語に特徴的な文法
- 第4回 中英語期における借入語
- 第5回 中英語の文学作品講読
- 第6回 初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
- 第7回 初期近代英語期に特徴的な文法
- 第8回 初期近代英語期における借入語
- 第9回 初期近代英語の文学作品講読
- 第10回 後期近代英語期における社会的・文化的時代背景
- 第11回 後期近代英語期に特徴的な文法
- 第12回 アメリカ英語の成立と特徴
- 第13回 現在進行中である英語の文法変化
- 第14回 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 英語史の基礎知識を理解した上で、英語の特徴を英語史的観点から説明できるかどうかを評価します。
- レポート 0%
- 平常点 40% 授業への参加・貢献度、ミニッツ・ペーパーの取り組みの状況を基準とします。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

評価の前提基準：出席率が70%に満たない者、課題を提出しない者についてはE判定とします。

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト  
松浪有 (1986) 『英語学コース1 英語史』大修館

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 英語学(形態論・統語論)(1)

担当教員： 若林 茂則

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月5

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B407

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:20 更新者： AA0529

更新日時： 2024-01-06 21:21:51

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

本授業では、人間言語の文法理論ならびに文構造の基礎を学ぶ。前半では、文構造の基礎を扱い、後半では各範疇に関する主要な現象と理論を扱う。

**科目目的**

英語の基礎的な文法現象について、生成文法理論に基づいて記述・説明ができるようになることを目的とする。

**到達目標**

- ・生成文法理論に基づき、基本的な文の構造を記述することができる。
- ・基礎的な文法現象について説明することができる。

**授業計画と内容**

- 授業計画
- 第1週 文法の構造と言語学の目標
  - 第2週 構造的階層性と多義性
  - 第3週 名詞句の構造
  - 第4週 動詞句の構造 (1)
  - 第5週 動詞句の構造 (2)
  - 第6週 時制と一致、助動詞
  - 第7週 補文構造
  - 第8週 ここまでのまとめと内容理解の確認
  - 第9週 名詞句移動：格理論と受動化、虚辞 (there) 構文
  - 第10週 定形節と不定節：コントロール理論と繰上げ
  - 第11週 主要部移動
  - 第12週 WH移動と量化詞移動：演算子と作用域
  - 第13週 移動の制約
  - 第14週 全体の振り返り

**授業時間外の学修の内容**

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週 1 回の授業が半期 (前期または後期) または通年で完結するもの。1 週間あたり 4 時間の学修を基本とします。
- ・毎週 2 回の授業が半期 (前期または後期) で完結するもの。1 週間あたり 8 時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- |      |     |   |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 40% | ・用語や概念を十分に理解し、授業で扱った内容をカバーできているか  |
| 期末試験 | 40% | ・用語や概念を十分に理解し、授業で扱った内容をカバーできているか<br>・授業内で扱った内容を踏まえて発展的な問題に対して論理的な考察ができているか  |
| レポート | 0%  |   |
| 平常点  | 20% | 定期的な授業資料の最後に発展問題を掲載する。それらの課題について、授業内容を踏まえて考察し、論理的にまとめた上で小レポート形式で提出してもらう。提出回数および以下の基準から総合的に評価する。<br>・授業内容を正しく理解しているか |

- ・考察が論理的であるか
- ・独自の論考や検証が行われているか

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- ✓ その他
- 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

レジュメを配布するため、特定のテキストは指定しない。  
参考文献は毎回の配布資料に付記する。

参考文献：

Radford, A. (2016). *Analysing English Sentences*. Cambridge University Press.  
Haegeman, L. (2006). *Thinking Syntactically: A Guide to Argumentation and Analysis*. Blackwell.  
渡辺 明. 2009年. 『生成文法』東京大学出版.

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: 英語学(形態論・統語論)(2)

担当教員: 若林 茂則

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 月5

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B408

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:20 更新者: AA0529

更新日時: 2024-01-06 21:22:58

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

主要な英語の形態・統語現象について学ぶ。後半では、日本語との比較も行う。

### 科目目的

英語の主要構文の形態・統語の現象と分析を学ぶ。

### 到達目標

英語の主要構文について、その特徴や分析について説明できるようになること。

### 授業計画と内容

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 束縛現象
- 第3週 極性現象
- 第4週 省略現象
- 第5週 有界性と完結性
- 第6週 結果構文
- 第7週 tough構文, 中間構文
- 第8週 ここまでのまとめと内容理解の確認
- 第9週 右方移動と等位接続
- 第10週 話題化, 倒置現象
- 第11週 日本語の格とかき混ぜ
- 第12週 日本語の受動態
- 第13週 日本語の作用域とWH疑問文
- 第14週 全体の振り返り

### 授業時間外の学修の内容

指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと

- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |     |   |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 50% | ・用語や概念を十分に理解し, 授業で扱った内容をカバーできているか<br>・授業内で扱った内容を踏まえて発展的な問題に対して論理的な考察ができているか   |
| 期末試験 | 0%  |   |
| レポート | 50% | 授業で扱ったものの中からトピックを選択し, 授業内容を踏まえて自身で考察し, 論理的にまとめた上で小レポート形式で提出してもらう。以下の基準から総合的に評価する。<br>・授業内容を正しく理解しているか<br>・考察が論理的であるか<br>・独自の論考や検証が行われているか |
| 平常点  | 0%  |   |

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

学生は、自身の所有するPCを用いてレポート等の作成やmanabaでの課題提出を行い、教員からのフィードバックを受ける。

### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

特定のテキストは使用せず、授業内で資料を配布する。

参考文献：  
中村捷・金子義明編『英語の主要構文』研究社  
中村捷・金子義明・菊地朗『生成文法の新展開』研究社  
影山太郎編『日英対照 動詞の意味と構文』大修館書店

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名: 英語学(意味論・語用論)(1)

担当教員: 細井 洋伸

履修年度: 2024 学期: 前期

開講曜日時限: 金1

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B409

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:21 更新者: AC3598

更新日時: 2024-01-08 09:45:45

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

このコースでは、特に意味論に焦点をあてて勉強していきます。意味論の分野でも、意味論に必要とされる基本的概念、単語や文に関する意味、テンス、モダリティ、さらには、形式意味論にも少し触れて行きます。

### 科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「各専攻の学問分野において求められる専門的な知識」を習得することを目的としています。

### 到達目標

この科目では、学生が、英語の文法的観点から見た様々な特徴について、これまでの英語学の知見を活かして、他者に説明できるようにする。

### 授業計画と内容

授業計画

- 第1回: 授業概要説明
  - 第2回: Semantics in a Model of Grammar
  - 第3回: Reference
  - 第4回: Word Meaning (Hyponymy, Polysemy, Synonymy)
  - 第5回: Word Meaning (Opposites, Hyponymy, Meronymy)
  - 第6回: Sentence Relations and Truth
  - 第7回: Logic and Truth (1): Negation and Conjunction
  - 第8回: Logic and Truth (2): Disjunction and Implication
  - 第9回: Entailment and Presupposition
  - 第10回: Sentence Semantics: Classifying Situations
  - 第11回: Tense and Aspect
  - 第12回: Formal Semantics: Translating English into a Logical Metalanguage
  - 第13回: Formal Semantics: Predicate Logic
  - 第14回: 総括・まとめ: 形式意味論の観点から
- 定期試験

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジメを事前に読み込み、分からないこと、疑問に思うことを頭で整理し、授業に臨むこと。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

- |      |     |   |
|------|-----|---|
| 中間試験 | 30% | 英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。 |
| 期末試験 | 30% | 英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。 |
| レポート | 0%  |   |

平常点 40% 出席状況、授業への参加・貢献度の状況を基準とします。  
\* 6回以上休んだ者は、評価の対象としない。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：その都度プリントを配布します。

参考書・参考資料等：Saeed, John. Semantics, 3rd ed. (2008) Oxford: Blackwell.  
杉本孝司『意味論1：形式意味論』(1998) 東京：くろしお出版

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考



科目名： 英語学(意味論・語用論)(2)

担当教員： 細井 洋伸

履修年度： 2024 学期： 後期

開講曜日時限： 金1

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B410

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:21 更新者： AC3598

更新日時： 2024-01-08 09:46:44

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

このコースでは、言葉の意味の中でも、私達が生きている世界に対する認知あるいは実際のコミュニケーションに関するものを扱って行きます。具体的には、認知言語学・語用論に焦点をあてて勉強していきます。

### 科目目的

この科目は、学位授与の方針で示す「各専攻の学問分野において求められる専門的な知識」を習得することを目的としています。

### 到達目標

この科目では、学生が、英語の文法的観点から見た様々な特徴について、これまでの英語学の知見を活かして、他者に説明できるようにする。

### 授業計画と内容

授業計画

- 第1回： 授業概要説明
  - 第2回： Cognitive Linguistics: some key concepts
  - 第3回： Categorization
  - 第4回： Prototype Theory
  - 第5回： Metaphor
  - 第6回： Metonymy, Synecdoche
  - 第7回： Image Scheme
  - 第8回： Construction
  - 第9回： Pragmatics: Deixis
  - 第10回： Cooperative Principle
  - 第11回： Conversational Implicature
  - 第12回： Speech Act Theory
  - 第13回： Politeness
  - 第14回： 総括・まとめ： 認知言語学、語用論とは
- 定期試験

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

指定したレジメを事前に読み込み、分からないこと、疑問に思うことを頭で整理し、授業に臨むこと。

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	30%	英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。
期末試験	30%	英語学についての基礎知識を理解したうえで、その基礎知識を活かして、英語の文法的な特徴を英語学の観点から説明できるかどうかを評価します。
レポート	0%	

平常点 40% 出席状況、授業への参加・貢献度の状況を基準とします。

\* 6回以上休んだ者は、評価の対象としない。

その他 0%

### 成績評価の方法・基準(備考)

### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)
- 反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)
- ディスカッション、ディベート
- グループワーク
- プレゼンテーション
- 実習、フィールドワーク
- その他
- ✓ 実施しない

### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

### 実務経験のある教員による授業

- ✓ はい  
いいえ

### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

### 実務経験に関連する授業内容

### テキスト・参考文献等

テキスト：その都度プリントを配布します。

参考書・参考資料等：Saeed, John. Semantics, 3rd ed. (2008) Oxford: Blackwell.  
Yule, George. Pragmatics, 1st ed. (1996) Oxford: Oxford.  
Chapman, Siobhan. Pragmatics, 1st ed. (2011) London: Palgrave.

### オフィスアワー

### その他特記事項

### 参考URL

### 備考

科目名： 英語学(心理言語学)(1)

担当教員： 平川 真規子

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 月2

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B411

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:21 更新者： AA1626

更新日時： 2024-01-09 16:00:20

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

心理言語学について概観します。前期は母語習得のメカニズムについて、心理言語学的な観点から日本語と英語の習得を中心に学びます。語彙・統語構造の習得と理解に焦点を当てます。また、二つ以上の言語環境で育つ子どものことばの発達についても学習します

**科目目的**

本講義では、母語獲得・言語理解・言語産出の研究において、どのような目的でどのような研究が行われているのかを理解し、母語の発達メカニズムについて考察することを目的とします。

**到達目標**

本授業では、母語話者による第一言語の獲得・言語理解・言語使用に関して、これまでの研究成果を理解し、基礎的知識を修得することを目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回：心理言語学とは
- 第2回：母語獲得における入力の特徴
- 第3回：幼児のことばの獲得
- 第4回：語の獲得
- 第5回：動詞の獲得
- 第6回：言語産出のメカニズム
- 第7回：子どもの不完全な発話・誤用
- 第8回：言語理解のメカニズム
- 第9回：構造依存性の知識
- 第10回：心理言語学の手法
- 第11回：文法の獲得：空主語、(再帰)代名詞の知識
- 第12回：文法の獲得：典型的な文と派生構造
- 第13回：バイリンガリズム
- 第14回：まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	20%	前期(前半)の授業内容の理解度が十分に理解できたかどうかを確認します(論述問題を含む)
期末試験	50%	前期(全体)の授業内容の理解度が十分に理解できたかどうかを確認します(論述問題を含む)
レポート	0%	
平常点	30%	毎回の授業の課題の内容・議論への積極的な取り組み
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席および課題の未提出は不可とします。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケート機能を使い、毎回の授業の理解度を確認しながら、授業を進めていく。

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト  
初回の授業で指示します。

参考文献:

- 『子どもに学ぶ言葉の認知科学』 広瀬友紀著 2022. ちくま新書 ISBN: 978-4-480-07493-5
- 『言語の本質』 今井むつみ・秋田喜美著 2023. 中公新書 ISBN: 978-4-12-102756-6
- 『レキシコンの構築 子どもはどのように語と概念を学んでいくのか』 今井むつみ・針生悦子著 2017. 岩波書店 ISBN: 978-4000025386
- 『はじめての言語獲得——普遍文法に基づくアプローチ』 杉崎鉦司著 2015. 岩波書店 ISBN: 978-4000058391
- 『ことばとこころ—入門心理言語学』 村杉恵子著 2014. みみずく舎 ISBN 978-4-86399-269-6
- 『ことばと思考』 今井むつみ著 岩波新書 2010 ISBN 978-4-00-431278-9
- 『言葉をおぼえるしくみ: 母語から外国語まで』 今井みつみ・羽生悦子著 ちくま学芸文庫 2014. ISBN 978-4-480-09594-7
- 『How Children Learn Language』 O' Grady, William. 2005. Cambridge University Press.
- 『Psycholinguistics 101』 Cowles, H. Wind著. 2011. Springer Publishing Company.

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

## 備考



科目名: 英語学(心理言語学)(2)

担当教員: 平川 真規子

履修年度: 2024 学期: 後期

開講曜日時限: 月2

配当年次: 2~4年次配当

科目ナンバー: LE-LG2-B412

登録者: admin

登録日時: 2023-10-19 06:58:22 更新者: AA1626

更新日時: 2024-01-09 16:14:30

### 履修条件・関連科目等

### 授業で使用する言語

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

### 授業で使用する言語(その他の言語名)

### 授業の概要

後期は第二言語に焦点をあて、文法知識の獲得・言語理解の研究を概観し、第二言語獲得のメカニズムを探ります。また、継承語 (Heritage Language) や第三言語についても検討します。

### 科目目的

第二言語の文法知識の獲得、言語理解や言語使用の基礎知識を習得します。様々な心理言語学的な実験手法が、言語に関するどのような疑問に答えることができるのかを理解することを目的とします。

### 到達目標

第二言語の文法知識の獲得・言語理解・言語使用に関して、これまでの研究成果を理解し、基礎的知識を修得することを目標とします。

### 授業計画と内容

- 第1回: 第一言語と第二言語の違い
- 第2回: 第二言語獲得研究への言語学的アプローチ
- 第3回: 与格交替と関係節の研究
- 第4回: 第一言語の影響
- 第5回: 中間言語の特徴
- 第6回: 有標性と言語転移
- 第7回: 回避の現象
- 第8回: 痕跡の心理的実在性
- 第9回: 意味役割と格の影響
- 第10回: 文処理における文法制約の影響
- 第11回: 年齢要因
- 第12回: 継承語話者の文法知識
- 第13回: 第三言語の獲得
- 第14回: まとめ

### 授業時間外の学修の内容

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

### 授業時間外の学修の内容(その他の内容等)

### 授業時間外の学修に必要な時間数/週

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

### 成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)

中間試験	20%	後期(前半)の理解度を確認します。論述問題を含みます。
期末試験	50%	後期(全体)の理解度を確認します。論述問題を含みます。
レポート	0%	
平常点	30%	毎回の授業の課題の内容・議論への積極的な取り組み
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

5回以上の欠席・課題の未提出は不可とします。

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける
- ✓ 授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

PBL (課題解決型学習)

反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)

- ✓ ディスカッション、ディベート  
グループワーク  
プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末
- ✓ その他  
実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

manabaのアンケート機能を使い、毎回の授業の理解度を確認しながら、授業を進めていく。

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト：  
初回の授業で指示します。

参考文献：

白井恭弘 (2008) 「外国語学習の科学：第二言語習得論とは何か」 (岩波新書) ISBN: 978-4004311508

白井恭弘 (2004) 「外国語学習に成功する人、しない人：第二言語習得論への招待」 (岩波科学ライブラリー) ISBN-13 :

Ortega (2013). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

Traxler, M. J. (2011) Introduction to Psycholinguistics: Understanding Language Science. Wiley-Blackwell.

Nakayama, M. (2015) Handbook of Japanese Psycholinguistics, De Gruyter Mouton.

## オフィスアワー

## その他特記事項

英語学 (心理言語学) (1) の内容を理解していることが望ましい。

## 参考URL

## 備考

科目名： 英語学(社会言語学)(1)

担当教員： 松井 智子

履修年度： 2024 学期： 前期

開講曜日時限： 水4

配当年次： 2～4年次配当

科目ナンバー： LE-LG2-B413

登録者： admin

登録日時： 2023-10-19 06:58:22 更新者： AA2131

更新日時： 2024-01-08 12:00:48

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

言語を媒介とした社会的・語用論的コミュニケーションのメカニズムについて学習します。乳幼児期から就学前までの基礎的な言語とコミュニケーションの発達と、就学前期より複雑なコミュニケーション能力の発達について理解を深めます。二つ以上の言語環境で育つ子どもの発達についても検討します。言語発達とコミュニケーション能力に不可欠な社会認知能力についても、心理学的・哲学的な視点から学びます。

**科目目的**

現代のグローバル社会を生きる上で必要なコミュニケーション能力とは何かを理解し、そのようなコミュニケーション力を獲得するプロセスについて学び、教育的な応用につなげることを目指します。社会的なコミュニケーション障害を持つ人に対する支援について考えることも目標とします。

**到達目標**

言語コミュニケーションの認知的メカニズムを理解し、その発達と障害について知識を身につけること、グローバル時代に多言語環境で育つ子どもがどのような発達を遂げるかについて理解を深め、教育や支援といった社会的応用について検討できることを目指します。

**授業計画と内容**

授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： 言語コミュニケーションに必要な能力とは何か
- 第3回： 言葉の発達1 生物学的基礎
- 第4回： 言葉の発達2 社会学的基礎
- 第5回： コミュニケーションの認知基盤
- 第6回： 言語コミュニケーションの発達1
- 第7回： 言語コミュニケーションの発達2
- 第8回： 言語コミュニケーションの発達3
- 第9回： 前半の総括
- 第10回： ミスコミュニケーション
- 第11回： コミュニケーションと発達障害
- 第12回： グローバルコミュニケーションとは
- 第13回： コミュニケーションと教育・支援
- 第14回： 総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・ 毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・ 毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

- 中間試験 0%
- 期末試験 60% 授業で学習した内容を理解し、的確に説明できるかどうかを評価する
- レポート 0%



平常点 40% 授業への参加、ワークシートの取組みを基準とする  
その他 0%

#### 成績評価の方法・基準(備考)

#### 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

#### 課題や試験のフィードバック方法(その他)

#### アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
  - ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

#### アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

#### 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー
- タブレット端末
- その他
- ✓ 実施しない

#### 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

#### 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

#### 【実務経験有の場合】実務経験の内容

#### 実務経験に関連する授業内容

#### テキスト・参考文献等

テキスト  
松井智子 「子どものうそ、大人の皮肉」 岩波書店 2013年

参考文献  
岡本真一郎 「言語の社会心理学 - 伝えたいことは伝わるのか」 中公新書 2013年

#### オフィスアワー

#### その他特記事項

#### 参考URL

#### 備考

**科目名： 英語学(社会言語学)(2)****担当教員： 松井 智子**

履修年度：2024 学期：後期

開講曜日時限：水4

配当年次：2～4年次配当

科目ナンバー：LE-LG2-B414

登録者：admin

登録日時：2023-10-19 06:58:22 更新者：AA2131

更新日時：2024-01-08 12:01:35

**履修条件・関連科目等****授業で使用する言語**

- ✓ 日本語
- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 中国語
- その他

**授業で使用する言語(その他の言語名)****授業の概要**

社会的なコミュニケーションのメカニズムを学習することにより、人間の心と脳の働きについて理解を深めることを目的とします。研究方法として、認知心理学と言語コミュニケーションの知見に基づいた認知語用論の方法論に親しみます。理論の基本を学ぶと同時に、コマーシャルや広告を取り上げて応用的アプローチの方法を探ります。

**科目目的**

心と言語・コミュニケーションの相互作用を認知科学の一端として学習し、多角的、学際的な現象をとらえることを学びます。また認知語用論を理解することによって、コミュニケーションを分析、評価する方法を獲得できることから、さまざまなコミュニケーション問題の解決にそれを応用することが可能になります。

**到達目標**

社会的・語用論的コミュニケーションのメカニズムについて、理論的な予測・検討ができること、さらにそれを応用して、コミュニケーションの実態を分析することができることを到達目標とします。

**授業計画と内容**

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：語用論の理論的枠組み—関連性理論 1
- 第3回：語用論の理論的枠組み—関連性理論 2
- 第4回：語用論の理論的枠組み—関連性理論 3
- 第5回：語用論の理論的枠組み—関連性理論 4
- 第6回：語用論とさまざまな言語現象
- 第7回：語用論とさまざまな言語現象
- 第8回：語用論とさまざまな言語現象
- 第9回：語用論から見た広告
- 第10回：語用論から見た広告
- 第11回：語用論から見た広告
- 第12回：語用論と障害
- 第13回：語用論と脳
- 第14回：総括・まとめ

**授業時間外の学修の内容**

- ✓ 指定したテキストやレジメを事前に読み込むこと
- ✓ 授業終了後の課題提出
- その他

**授業時間外の学修の内容(その他の内容等)****授業時間外の学修に必要な時間数/週**

- ・毎週1回の授業が半期(前期または後期)または通年で完結するもの。1週間あたり4時間の学修を基本とします。
- ・毎週2回の授業が半期(前期または後期)で完結するもの。1週間あたり8時間の学修を基本とします。

**成績評価の方法・基準(中間試験, 期末試験, レポート, 平常点, その他)**

中間試験	0%	
期末試験	60%	授業で学習した内容を理解し、的確に説明できるかどうかを評価する
レポート	0%	
平常点	40%	授業への参加、ワークシートの取組みを基準とする
その他	0%	

## 成績評価の方法・基準(備考)

## 課題や試験のフィードバック方法

- ✓ 授業時間内で講評・解説の時間を設ける  
授業時間に限らず、manabaでフィードバックを行う  
その他

## 課題や試験のフィードバック方法(その他)

## アクティブ・ラーニングの実施内容

- PBL (課題解決型学習)  
反転授業 (教室の中で行う授業学習と課題などの授業外学習を入れ替えた学習形式)  
ディスカッション、ディベート
- ✓ グループワーク
- ✓ プレゼンテーション  
実習、フィールドワーク  
その他  
実施しない

## アクティブ・ラーニングの実施内容(その他)

## 授業におけるICTの活用方法

- クリッカー  
タブレット端末  
その他
- ✓ 実施しない

## 授業におけるICTの活用方法(その他の内容等)

## 実務経験のある教員による授業

- はい
- ✓ いいえ

## 【実務経験有の場合】実務経験の内容

## 実務経験に関連する授業内容

## テキスト・参考文献等

テキスト  
今井邦彦 編 「最新語用論入門12章」 大修館 2009年

参考文献  
Tanaka, K. 1999. Advertising Language: A Pragmatic Approach to Advertisements in Britain and Japan. Routledge.

## オフィスアワー

## その他特記事項

## 参考URL

## 備考